

機械器具25 医療用鏡
 管理医療機器 単回使用高周波処置用内視鏡能動器具 70164020
 (非血管用ガイドワイヤ 35094022)

ジャグトーム RX

再使用禁止

【禁忌・禁止】

1.使用方法

- (1) 再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1.形状・構造

ジャグトーム RX(以下、本品という)は、ガイドワイヤが予め挿入されている胆道処置用カテーテル及び付属品としてのJ-イントロデューサで構成される。

(1) 胆道処置用カテーテル

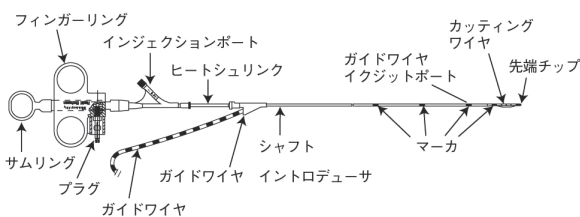
胆道処置用カテーテルは、モノポーラ式高周波発生装置(本品に含まれない)に接続し、先端部のカッピングワイヤを通電することによりファーター乳頭もしくはオッディ括約筋の切開及び凝固を行う。カッピングワイヤは、サムリングを回転させることにより向きの微調整を行ったり、癖づけして方向づけしたりすることができる。また、シャフト部はガイドワイヤルーメン、インジェクションルーメン及びカッピングワイヤルーメンを有する3ルーメン構造で、ガイドワイヤルーメンがC型のオープンチャンネルとなっているラピッドエクステンジタイプである。

(2) ガイドワイヤ

予め挿入されたガイドワイヤには、ジャグワイヤーとエクステンダブルジャグワイヤーの2種類がある。ジャグワイヤーとエクステンダブルジャグワイヤーは、ニッケル・チタン合金製コアワイヤにポリテトラフルオロエチレン(PTFE)製のシュリンクスリーブが被覆された構造となっている。シュリンクスリーブは黄色と黒のストライプになっている。このストライプは、内視鏡下で可視的にガイドワイヤの前進・後退の動きを観察するためのマーカ(ストライプマーカ)として機能する。先端には長さ5cmのエクセス線不透過性の先端チップが付いている。また、挿入を容易にするために、先端チップに親水性コーティング、ストライプのシュリンクスリーブの先端側約60cmにシリコンコーティングが施されている。

2 外観図

(1) 胆道処置用カテーテル



(2) 付属品(J-イントロデューサ)外観図



* <寸法等>

ガイドワイヤ			胆道処置用カテーテル					
ジャグワイヤー			Autotome RX					
最大外径(表示値)	全長表示値	先端チップ形状	先端チップ外径			カッピングワイヤ長		カテーテル有効長
0.65 mm (0.025 in)	260 cm	ストレート	4.9 F/	4.4 F/	3.9 F/ 1.3 mm	20 mm	30 mm	200 cm
	450 cm	アングル						
0.91 mm (0.035 in)	260 cm	ストレート	1.63 mm	1.47 mm	-	20 mm	30 mm	200 cm
	450 cm	アングル						

ガイドワイヤ			胆道処置用カテーテル					
エクステンダブルジャグワイヤー			Autotome RX					
最大外径(表示値)	全長表示値	先端チップ形状	先端チップ外径			カッピングワイヤ長		カテーテル有効長
0.91 mm (0.035 in)	260 cm	ストレート	4.9 F/	4.4 F/	3.9 F/ 1.3 mm	20 mm	30 mm	200 cm
		アングル	1.63 mm	1.47 mm	1.3 mm			

胆道処置用カテーテルの種類	カテーテル外径	ガイドワイヤルーメン径
Autotome RX39	7F / 2.4 mm	0.76 mm
Autotome RX44		0.91 mm
Autotome RX49		0.91 mm

3.主な原材料

ABS樹脂、ステンレススチール、ポリテトラフルオロエチレン、ポリエーテルエーテルケトン、シリコンコーティング、ポリエーテルブロックアミド(タングステン含有)、ポリエーテルブロックアミド、親水性ポリマーコーティング

【使用目的又は効果】

本品は、胆管における診断及び胆管結石に関わる内視鏡的治療法における、ファーター乳頭もしくはオッディ括約筋切開を目的とした内視鏡的乳頭切開術に使用される機器である。内視鏡下で高周波電流を用いて、組織の切開及び凝固を行う。また、本品は術時における利便性のため、胆道処置用カテーテルと非血管用ガイドワイヤを組合わせたものである。

【使用方法等】

1.準備

- (1) 本品の先端から金属製のマンドレルを取り外す。(先端の屈曲形状が保たれるよう注意すること)
- (2) 本品を点検し、形状が適切であり、ねじれ等の損傷が生じていないことを確認する。カテーテルにねじれ等があると、注入を行う性能を損なう場合がある。また、ガイドワイヤを点

取扱説明書を必ずご参照下さい。

検し、表面部の凹凸もしくは先端部での摩擦傷又は近位端部の破損もしくはねじれがないことを確認する。

- * (3) 適切なアクティブコード(本品に含まれない)をモノポーラ型高周波発生装置(本品に含まれない)に接続する。
- * (4) 対極板を患者に貼付し、モノポーラ型高周波発生装置に接続する。高周波発生装置の出力を、適切な設定値にセットする。過度の出力は、患者への傷害やカッティングワイヤの損傷を引き起こすおそれがある。推奨値については高周波発生装置の推奨出力設定値を参照のこと。
- * (5) 本品の遠位端からガイドワイヤの遠位端が出るまでガイドワイヤを押し進め、ガイドワイヤの遠位端(ストライブのない色の濃い部分)を滅菌水に浸して親水性コーティングを活性化させる。
- * (6) 内視鏡にRXロックデバイス(本品に含まれない)を取り付けることを推奨する。
- * (7) 滅菌水又は生理食塩液を使用してカテーテルをフラッシュし、完全に抜気を行う。
- * (8) 本品を使用する際は、鉗子栓の使用を推奨する。
- * (9) 造影剤を注入する場合、インジェクションポートに20 mL以下のシリンジ(本品に含まれない)を取り付け、注入する。

2 使用方法

- (1) 本品を内視鏡(本品に含まれない)に挿入する。
- (2) サムリングを回転させ、カッティングワイヤの位置を決める。
- * (3) カニューレ後、胆管内の適切な位置に達したら、インジェクションポートにシリンジを接続し、造影剤を注入してエックス線透視下で胆管造影を行う。
 - a. 胆道処置用カテーテルと予め挿入されたガイドワイヤを、胆管内に一緒に配置することもできる。
 - b. 内視鏡検査用デバイスは、ガイドワイヤ上で交換することもできる。選択した胆管へアクセスした状態を維持するために、内視鏡によってストライブ状のマーカをモニターする。ガイドワイヤが前後に動いた場合、ストライブ状のマーカを内視鏡で確認し、ガイドワイヤを留置し直すこともできる。
- (4) エックス線透視下でガイドワイヤ遠位部のエックス線不透過性となっている先端部の位置を確認する。
- * (5) カニューレの状態から内視鏡下で本品を少し手前に引き、カッティングワイヤを適切な位置にする。
- (6) 括約筋切開を行う前に、内視鏡で観察しカッティングワイヤの位置が適切であることを確認する。
- * (7) ピンが見えなくなるまでアクティブコードを本品のプラグに完全に差し込み、アクティブコードを本品に取り付ける。
- (8) 適切な出力設定値でカッティングワイヤを操作し、ファーター乳頭又はオッディ括約筋の切開及び凝固を行う。
- * (9) 本品をアクティブコードから取り外す。

3 抜去

- * 本品は、ガイドワイヤと一緒に抜去しても、あるいはガイドワイヤを留置したまま抜去することも可能である。サムリングに力がかかっていない状態であること、及び、高周波発生装置の電源が切つてあることを確認すること。ガイドワイヤを留置したまま抜去する場合は、次の手順で行う。
- * (1) ガイドワイヤをRXロックデバイス(本品に含まれない)に固定した状態で、本品を内視鏡から抵抗を感じるまで引く。その際、RXロックデバイスを取り付けた内視鏡の鉗子口付近に、ガイドワイヤイグジットポートを目視で確認できる。
- * (2) 抵抗を感じたら、本品の残り5 cm分を標準的交換手法により行う。ガイドワイヤの固定を解除し、本品の先端部が鉗子栓から出てきたら、ガイドワイヤを再度RXロックデバイスに固定し、ガイドワイヤを本品から抜去する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- * (1) シャフトがコイル状になっている状態で、ハンドルを操作しないこと。シャフトがキンクし、機器が機能しなくなるおそれ

がある。

- (2) 使用前に作動試験を行わないこと。早期にカッティングワイヤの金属疲労を引き起こし、カッティングワイヤの性能・特性を損なうおそれがある。
- * (3) 本品の準備後、本品の使用前に、手でシャフトを所望の方向に形づけておくことよ。
- (4) 本品を内視鏡内へ進める際には、カテーテルへの損傷を防ぐため、慎重に、短い2~3 cmのストロークでカテーテルにキンクが生じないようにチャンネルに挿入すること。
- (5) カテーテル先端部の角度を左右に変化させるためハンドルを廻す際、ハンドルのインジェクション用ポートを下にして固定し、一方の手でハンドル後端のサムリングを180度ずつ回転させゆっくりと廻す。ファーター乳頭内での操作では、先端の強い曲げや押し付け等の抵抗をさけるよう注意すること。また、連続して回転を加え続けるとカテーテル全体がねじれる事により、本品の破損や有害事象を引き起こす原因となる可能性がある。
- (6) 先端部の位置調整のためハンドルを回転させる際は、本品にアクティブコードを接続しないこと。ハンドル回転中にあやまって通電され、意図しない組織を損傷するおそれがある。
- (7) 先端部を90度以上曲げて使用しないこと。カテーテルがキンクするおそれがある。
- * (8) カッティングワイヤの破断や内視鏡の破損、患者の損傷につながる可能性があるため、高周波を照射しているときは、本品を常に組織に直接接触させておくことを推奨する。

【使用上の注意】

1. 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)

- (1) ペースメーカー又は植込み型除細動器を装着した患者。[ジアルミ又は電気手術の実施により、植込みデバイス設定の初期化、センシング及び治療の不適切作動、植込みリード電極周辺組織の損傷、又は植込みデバイスの恒久的な損傷等を生じる恐れがある。]
- (2) 出血時間が長く、凝固障害のある患者。[大量出血のおそれがあるため、出血があっても患者への危険がない細胞組織の採取のみに使用すること。出血時の処置及び適切な気道確保について十分に注意すること。]

2 重要な基本的注意

- (1) 本品を内視鏡に挿入する際は、高周波発生装置の電源を切つておくこと。不適切な接地により、患者や機器の損傷を起こす可能性がある。
- (2) 皮膚と皮膚の接触(例えば、患者の腕と体の接触)は、乾いた布やガーゼを挿入するなどして避けること。
- (3) アクティブコードと患者の体もしくはその他電極との偶発接触を防止すること。
- (4) 内視鏡モニターで視認してカッティングワイヤが内視鏡から出ていることを確認する。[通電中にカッティングワイヤと内視鏡との接触が生じ、患者の傷害、術者の傷害、カッティングワイヤの破損、又は内視鏡の損傷に至る可能性がある。]
- * (5) 本品の最大定格電圧750V(1500Vp-p)を超える出力の高周波発生装置との併用は推奨しない。
- * (6) ガイドワイヤを使用する場合、製造者により許容誤差が異なるため、弊社で製造販売するガイドワイヤの使用を推奨する。
- * (7) 推奨ガイドワイヤを使用する場合は、以下が確認できれば手技中にガイドワイヤを抜去する必要はない。
 - ・ 常に電流の高周波発生装置への帰路が確認されている。
 - ・ 切れたり、焼けたり、傷付いたりしたガイドワイヤを使用していない。破損したガイドワイヤの使用は、患者や機器使用者の損傷につながる可能性がある。また、漏れ電流の原因にもなり得る。
- * (8) 括約筋切開術中にガイドワイヤを抜去する場合は、抜去前

に高周波発生装置の出力を下げる。抜去後、出力を徐々に上げ、切開に適した出力にすること。術中にガイドワイヤを抜去すると吸入力が落ちたり、造影液が逆流したりすることがある。

- * (9) 弊社製以外のガイドワイヤを使用する場合は、患者損傷を防ぐため、カッティングワイヤに通電する前に抜去すること。

3 不具合・有害事象

(1) 重大な有害事象

- ① 膵炎
- ② 胆管炎
- ③ 穿孔
- ④ 敗血症／感染症

(2) その他の有害事象

- ① 出血
- ② 血腫形成
- ③ 結石嵌頓
- ④ 造影剤に対するアレルギー反応

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管の条件

高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2 有効期間

3年(自己認証による)

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者:

ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
電話番号:03-6853-1000

製造業者:

米国 ボストン・サイエンティフィック コーポレーション
[Boston Scientific Corporation]

【取扱説明書】

ジャグトーム RX(以下、本品という)や高周波発生装置の使用にあたっては以下にも注意すること。

- (1) 本品を改造しないこと。
- (2) 本品は、高濃度酸素下又は引火性液体もしくは可燃性ガスの近くで使用しないこと。接着剤の溶剤や洗浄・消毒に使用する可燃性の物質は術前に揮発させること。いかなる電気手術装置でも、患者や使用者に電氣的障害を引き起こす可能性がある。
- (3) 患者の体の下側又は体腔内に液体又は可燃性の薬品が溜まっている場合は、手術前に拭き取ること。
- (4) 高周波手術を行う前の空気、不活性ガス等の過剰な注入によるガス塞栓によって安全上の問題が生じる可能性がある。可能であれば、内因性ガスは術前に吸引すること。
- (5) 本品は、BF形又はCF形の高周波発生装置に接続して使用すること。
- (6) 使用するアクティブコードは、最小定格75ワット用であることを確認すること。
- (7) 接触監視モニタが使用可能な場合、もしくは高周波発生装置に内蔵されている場合は、監視機能対応の対極板を使用することが望ましい。対極板の接地面全体ができるだけ術野に近く、患者の体に接触しているようにすること。接地している可能性がある金属製品や金属部分に患者が触れないようにすること。この措置としては、帯電防止シートの使用が望ましい。
- (8) 常に高周波発生装置への帰路(対極板)が確実に確保されていることを確認する。
- (9) モニタ電極はできるだけ手術部位から離すこと。ニードル電極の使用は推奨されない。
- (10) 本品だけでなく内視鏡(本品に含まれない)からも患者漏れ電流が生じる。内視鏡を適切に接地すること。
- (11) 電気手術の効果はアクティブ電極の規格や性能にも大きく影響されることから、特定の効果が得られるまで出力設定を示すことは不可能である。適切な出力設定が不明な場合、低い出力から切除可能な設定まで徐々に出力を上げていくこと。
- (12) 高周波発生装置は、その使用において患者や術者に対する電氣的危険性をはらんでいるため、以下のような反応に注意すること。
 - ・ 高周波電流による組織破壊
 - ・ 火傷
 - ・ 電気刺激反応
 - ・ 不整脈
- (13) 火傷を防止するため、術者及び介助者は保護手袋を着用することを推奨する。
- (14) 本品を使用後は、医療機関、行政または地方自治体の定める規制に従って、製品及び包装を廃棄すること。